

どうして今、正定聚なの？

神姫組 光輪寺 衆徒 棚原 正智

今年から私たちの兵庫教区では「現生正定聚」を多くの人々に伝えようという目標を掲げています。

「……？」
私だけかもしれませんが正直なにか良く解らないです、いろんな意味で。
それで今回は、私的に解らない「いろんな意味」を考えてみたいと思います。

まず、どうして今現生正定聚という言葉の問題にしないといけないのかということですか。それには、今の現状を考えると、今が必要かと思いませんか。お寺で報恩講とか永代経が勤まる時、お参りしてもらうようお願いすると「まだ早い。」という声が返ってくる

うな方は結構おられて、かく言う私も同じような思いで若い頃は過していました、お寺はお年寄りの来るところ、お年寄り死を考える年代と勝手に自分の中に図式が出来上がっていたように思います、今考えるとなんて失礼な図式なんですか。それが少し変わったのが京都にある中央仏教学院、通称中仏で真宗の勉強をするようになってからです。

しかし、変わったのは少しだけだった様な気がします。蓮如様の「朝には紅顔ありて、夕には白骨となれる身なり」という白骨の御文章を読んでみて、死というのはいつ訪れるものか判らないからなあと思

うにはありません。それは、先ほど「思うようになりました」と書いていますが、これは少し言葉が省略されていて正しくは「私も死という事柄が判らない今を生きているんだなあ」と、思うように「努力しよう」と心がけるようになりまし

ます。土曜日は次の日が日曜日だからワクワクする、ちょうど遠足の前の日の晩のようにです。私たちお念仏に出逢わせて頂いた者は、土曜日あるいは遠足の前の日のように、末はお浄土で阿弥陀様と同じ悟りを開かしてもらえるのだから、喜ばしいということです。

この土曜安心という言葉は聞いた時はなるほどと思いましたが、同時にアリガタイな気持ちも思いました。けれども100%喜んでいない私も同時に存在してました。浄土真宗の本當の喜びは先の事で、今はそれを待ちながら喜びましょうというのとはどこか釈然としな

い、今が臨終」という言葉に託された意味は、先の心配をするのではなく、今の時この時を大事に生きるといいう意味に変わって



僧侶研修会「現生正定聚」の様子

ことがあります。これは、お寺の用事はもう少し年齢がいつてからという思いがあつてのことでしょう、もつと言ひやうとお寺の葬儀と法事という死んだ後用事があるので、生きてる間はそんなに関係がない、せいぜい死が近くなつてからの用事だという思いがあつてのことなのでしょう。このよ

うにも仏教的にも合格なんではしょうが、私は残念ながら合格点には今一つ届いているよ

うにはありません。それは、先ほど「思うようになりました」と書いていますが、これは少し言葉が省略されていて正しくは「私も死という事柄が判らない今を生きているんだなあ」と、思うように「努力しよう」と心がけるようになりまし

ます。土曜日は次の日が日曜日だからワクワクする、ちょうど遠足の前の日の晩のようにです。私たちお念仏に出逢わせて頂いた者は、土曜日あるいは遠足の前の日のように、末はお浄土で阿弥陀様と同じ悟りを開かしてもらえるのだから、喜ばしいということです。

この土曜安心という言葉は聞いた時はなるほどと思いましたが、同時にアリガタイな気持ちも思いました。けれども100%喜んでいない私も同時に存在してました。浄土真宗の本當の喜びは先の事で、今はそれを待ちながら喜びましょうというのとはどこか釈然としな

い、今が臨終」という言葉に託された意味は、先の心配をするのではなく、今の時この時を大事に生きるといいう意味に変わって

会対応部会／矯正、播磨社、会復帰促進センター入佛式(加古川)◆20日保育、理事、会・主任代表者会◆21日寺婦、コーラス練習◆22日少年、報恩講子どもの集い、今年で13回目となる震災支援報恩講子どもの集いが別院全館を使用して開催された。気温も低くあいにくの天気となったが、子ども達は別院に到着すると「おはようございます！」と元気な声でスタッフと挨拶を交わしていた。毎年参加している子やサマースクールで友達になった子達もたくさんいたこともあり、初めて参加する子もすくみ

遅くまで話し合った。翌日には青年会恒例となりつつあるパドミントン大会で大いに盛り上がった。仏教青年連盟はこの冬、2月、3月にも研修交流会を開催予定。初めの方

「今の私にできること」をテーマに兵庫医科大学教授吉永和正氏、神戸市消防士坂原真由香氏を迎え「救急医療について」学んだ。



AEDの使用方法について学んだ

心臓停止後3分で50%死亡、呼吸停止後10分で50%死亡という現実を知り、応急処置の大切さ、放置する怖さを感じた。色々な機会で心肺蘇生等を習ったが現場に直面したとき実働できるだろうか？また、救急車出動の6割が病院に搬送する必要があるという問題も知った。救急医は、門徒(信者)や集合できる場所がある宗教者に対して「正確な

情報を発信」を望んでいる。普及し始めているAEDの使用法や臓器移植の意思表示(賛成・反対どちらにしても)の必要性などを設け、広めてほしいと現場の声を聞いた研修会であった。阪神・淡路大震災物故者総追悼法要の開催した。法要では正信偈をお勤めし、別院総代でもある貝原前知事を始め参列者全員が震災で亡くなられた方々を偲び焼香された。

「いのちを考えると生けるもの全てを指し、それが親鸞聖人の言葉で借りれば「御同朋」という言葉になるのでは」という「なにか」が喜んだり悲しんだりしている時、同じなかまであるならば、共に喜んだり悲しんだり時として私の出来ることを行つてゆく。これが現生正定聚の受け取りであり味わいだと思えます。

本堂で講演する柳田氏

◆11月1日(日)ハハラ、20周年記念大会(本山) ◆2日(月) 基推、同朋運動部門会議

◆3日(火)別院、第一土曜仏教講座、講師は浄土真宗本願寺派式務部会行事、今小路寛真師、講題は「仏事から見えてくるもの」 ◆5日(木)青僧会、役員会 ◆6日(金)別院、玉津中

学校郊外学習/仏婦、第32回近畿地区仏教婦人研修会、7日まで(奈良) / 門推、幹事会 / 基推、教学伝道部門会議 ◆7日(土)別院、別院仏教婦人会定例法座、講師は穴栗組教専寺大西宝雲師、講題は「現生正定聚」 ◆8日(日)別院参拝、播磨中組総代会 / 基推、第1回連研のための研究会 ◆10日(火)別院、モダン寺土曜子ども会 ◆11日(水)別院参拝、滋賀教区志賀組本福寺 ◆12日(木)少年、役員会 / 別院参拝、大阪教区石川南組 ◆13日(金)別院参拝、安芸教区沼田組浄栄寺仏教婦人会 ◆14日(土)別院参拝、鹿兒島教区鹿兒島組善福寺 / 別院参拝、大阪教区三郡組萬福寺 ◆15日(日)別院、常例法座、講師は神戸湊組高松寺谷川弘頭師、講題は「現生正

定聚」16日まで ◆16日(月)別院参拝、山手小学校 / 別院参拝、北山小学校 ◆17日(火)仏教、幹部一泊研修会、18日まで ◆18日(水)仏婦、第20回若婦人のつどい

このたびの「若婦人のつどい」は神戸別院1階研修ホールにて約300名の参加者によって開催された。前日より同じ神戸別院内にて仏社の一泊研修会が行われており、仏社仏婦ともにキッズサンガを研修内容に組み込み行われた。

特に今回の「若婦人のつどい」には小学生・小学生以下の小さなお子さんをお持ちの年代、45歳以下の方を主な研修参加対象者として呼びかけを行った。これは今回の研修内容にキッズサンガを取り入れ、実際に各組・各寺院でキッズサンガが開催される際、お子さんを預ける立場の方々にキッズサンガへの理解、関心を深めてもらうことを目的としている。また参加者のお子さんたちと一緒に別院へ来

院いただき、兵庫教区少年連盟の協力を得て模擬的なキッズサンガを子どもたちに体験してもらった。同日研修会を開催していた仏社の方々にもキッズサンガの様子を見学していただいた。組、寺院へ戻られてキッズサンガを開催する際の参考にしていただける

ではないか。講師は中央キッズサンガ推進委員南莊乗宏師(仏社、仏婦とも)この日、仏教音楽儀礼研究所委託研究員、鹿多証道師に仏婦の参加者は讃歌指導をいただいた。曲目は「花のころ」、南莊先生が作曲された曲を偶然選んでおり、一緒に体験参加でき

る讃歌指導の時間は盛り上がりを見せた。子どもたちには閉会式前に、キッズサンガのなかで仏教讃歌「しんらんさま」と「ありがとう」の2曲を練習、お母さんたちの前で発表してもらった。この2曲は子ども1人が「お母さんが日ごろお寺のコーラスグループに参加してこの曲を歌っているから、今日いっしょに歌いたい」という希望から曲目が決まった。研修会は若い仏教婦人向けに和やかに、そして固いお話にならないよう、講師にもお願いをしていたのだが、そうやって「お寺で気安く足を運ぶところなんだな」って思っていたかどうか、開かれたお寺、子どもの声がするお寺になる第一歩になるのではないかと。別院参

拜、兵庫大宗教教室 ◆19日(月)寺婦、コーラス練習 / 基推、兵庫教区大遠忌法要委員会常任委員会 / 庶務、組長ブロッタ長会 / 兵庫県佛教教誨師会秋の研修会 ◆20日(火)基推、社会対応部会 / 教区法要事務所事務担当者会議(本山) ◆21日(水)仏青、役員会 ◆22日(木)特法協、報恩講習礼 ◆24日(土)保育、まことの保育推進者研修会 ◆27日(月)別院報恩講、29日まで

今回は祖徳を報じる報恩講法要が2007(平成19)年11月27日(火)より29日(木)までの3日間、本願寺神戸別院にて修行された。例年報恩講では教区内僧侶に出勤を依頼し、この度の報恩講法要にも133名の僧侶が出勤された。また、法要に際し教区内寺院ご門徒の方々より餅柿

をはじめ、その他多数のお供物をご進納いただき、尊前にお供えするなど、法要に一層華やかさを添えた。法要期間中滋賀教区神崎組金剛寺武田智徳師にご法話をいただき、僧侶問わず多くの方々も聴聞、さらには27日・28日の両日、教区仏婦と寺婦による「仏教讃歌の集い」も開催された。同日別院仏社の方々協力のもと開催されたチャリティバザーの収益金は浄土真宗本願寺派「たすけあい運動募金」に寄贈された。★「たすけあい運動募金」の目的【この運動は、1973(昭和48)年に厳修された親鸞聖人御誕生80年・立教開宗750年慶讃法要を機縁に、「このよこびを人々に」をスローガンに、はじめられ、人権擁護・平和・環境保護問題に視点を置き、社会的に活動している諸団体に對して支援を行うことにより、「御同朋の社会」の実現をめざすことを目的とする。(浄土真宗本願寺派たすけあい募金規約 第三条抜粋) ◆29日(火)別院参拝、大阪教区河



満堂となった「若婦人のつどい」

中北組浄福寺 ◆30日(水)仏婦、教区仏婦幹部同朋運動研修会、12月1日まで ◆12月1日(日)別院、第一土曜仏教講座、講師は龍谷大学教授鍋島直樹師、講題は「宮沢賢治の生命観—みんなのほんとうのさいわいをさがしに」 / 門推、門推の日100回記念式典 / 別院参拝、奈良教区葛城中組明圓寺法り会 / 仏社、阪神北組仏社組織拡充研修協議会(阪神北組光園寺) ◆2日(月)別院参拝、大阪教区石川南組専念寺 ◆3日(火)少年、役員会 / 基推、新あつい壁上映 / 基推、社会対応部会長来院 / ハハラ、役員会 ◆4日(水)護持口数調整委員会 / 庶務、常備会 / 布教団、役員会 ◆5日(木)婦、幹部研修旅行(国府方面) 7日まで ◆6日(金)基推、連研部会 / 青僧会、役員会 ◆8日(土)仏青、近畿ブロッタ研修会(津村別院) 9日まで ◆9日(日)別院参拝、長崎教区諫早組真築寺 ◆10日(月)別院、別院仏婦お磨き ◆11日(火)庶務、第138回臨時教区会 ◆12日(水)特法協、特別法務員協議会役員会 / 青僧会、お月見コンサート慰労会(姫路) ◆13日(木)ハハラ、第18期ハハラ活動養成研修会(玉塚まどか園) 14日まで / 都市開教、都市開教推進部会 / ラジオ放送委員会 ◆14日(金)別院参拝、神戸東組寺婦 ◆15日(土)別院、常例法座、講師は、城崎組國正寺小玉大誠師、講題は「現生正定聚」16日まで ◆17日(日)庶務、組長会 / 18日(月)基推、1月17日阪神・淡路大震災物故者総追悼法要朗誦作文評価基準会議(社